



資産運用こぼれ話 絶対にやめてはいけない

寄稿：岡本 和久



2018年には個人型確定拠出年金「イデコ」やつみたてNISAが幅広く普及しました。私の周りでも多くの方が口座を開かれたと聞いています。退職後の生活は年金だけではなかなか難しいという現実を考えるとこれはとてもよいことです。一番、重要なのは「将来の自分は今の自分が支える」ということです。

一方、年末にかけ世界的に株式市場が下落をしました。多くの方が恐る恐る投資を始めたところ、下落局面に遭遇して不安を感じたことだと思います。そのような方には「絶対に止めてはいけない」と言いたいのです。

アメリカに「ソックス(靴下)を買うようにストックス(株式)を買え」ということわざがあります。SocksとStocksの綴りと発音が似ていることからこのように言われているのですがこれは真実です。誰でも靴下を買う時、定価1000円のもものがセールで700円になっていれましょう。靴下でなくてもどんなものでも安く買えるのはいいことです。でも、株式だけはなぜか安くなるとみんな敬遠してしまうのです。

株式を買うことは企業の株主資本を保有するということです。株価が安くなれば株主資本を安く買えるのです。しかも、グローバルに十分に分散された株式ポートフォリオの株主資本の総計は世界経済の成長とともにゆるやかに増加しているのです。

積立投資の基本は「ドルコスト平均法」です。これは毎月一定の日に定額を投資していく投資方法で資産形成をするには非常に有効な方法です。定額を投資するので株価が安い時は多くの口数を買うことができます。高い時は少ない口数を買います。これをひたすら続けていけば割安なコストのポートフォリオが出来上がるのです。

いずれにしても現役時代に積立投資する資金はずっと先の生活のためです。その間にポートフォリオの価値は増え続けます。株価は上下に大きく変動しますが、長期的に見ればほぼ価値を中心



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

にして推移しています。暴落があり、価値あるものを安く買えるのであれば、それは実は絶好の買い場なのです。その一点をしっかりと心にきざんで運用を続けることこそ成功の秘訣です。

(この原稿は投資手帖 2019年2月号に寄稿したものに加筆修正を加えたものです)